

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 5 月 19 日現在

機関番号：32663

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K02764

研究課題名(和文) 海外から見た日本人グローバル人材の強みと課題—大学教育への示唆—

研究課題名(英文) The Strengths and Weaknesses of Japanese Globally-Minded Leaders: Suggestions for Japanese university education

研究代表者

藤尾 美佐 (FUJIO, Misa)

東洋大学・経営学部・教授

研究者番号：20350712

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、日本のグローバル人材育成について、1)需要と供給、すなわち、実業界などの実践の場と大学教育とのギャップ、2)日本国内で考える人材と海外の視点とのギャップを調査し、研究成果に基づいた示唆を大学へ提言することを目的とした研究である。海外、特にイギリス、欧州、北米、およびアジアで働く日本人ビジネスパーソンや海外留学する日本人学生を中心に、インタビューおよびフォーカス・グループを積み上げ、個人、組織、そして国レベルでの課題を明らかにし、数々の国際学会やジャーナルで結果を発表した。

研究成果の概要(英文)：For the past decade, fostering globally-minded leaders has become an urgent agenda in Japan at both corporate and academic levels. This study aimed at investigating the gaps between 1) supply and demand of globally-minded leaders in Japan, that is, what the business field needs and what academia tries to foster and 2) Japanese and overseas perspectives of globally-minded leaders, and presenting our suggestions for Japanese tertiary education based on our findings.

Our data were collected overseas, in the UK, Europe, the US, and Asia, in particular, through various interviews and focus groups with Japanese business people and university students working and studying overseas. Our analysis disclosed various challenges at the individual, organizational and national level, and our findings and analytical results were presented in many domestic and overseas journals and conferences.

研究分野：応用言語学

キーワード：グローバル人材 異文化間コミュニケーション能力 英語非母語話者 言語政策 グローカル

1. 研究開始当初の背景

国際競争力がますます必要となっている昨今、グローバル人材の育成は、実業界、教育界で緊急の課題である。大学においてもグローバル人材の育成が大きな目標となっているものの、グローバル人材に必要な能力や具体的な資質に関しては、ビジネスパーソンの経験談を中心とした刊行物が多く、学術的な研究は、まだ極めて初期段階と言える。そうした中、最も必要とされる研究は、1)需要と供給、すなわち実業界などの実践の場と大学教育とのギャップを埋める研究、2)日本国内で考えるグローバル人材と海外の視点とのギャップを埋める研究であると、研究代表者は考えていた。そのため、海外で働く日本人、外国人にインタビューやアンケート調査を行い、彼らが考えるグローバル人材像を明確にし、国内で調査された先行研究と比較して、今後日本の大学が必要とするグローバル人材育成の課題とモデルの提示を行う研究に取り組むことを考えていた。

2. 研究の目的

2012年に発表された、文科省の「グローバル人材育成推進会議審議まとめ」では、グローバル人材の主要な概念として、語学力・コミュニケーション能力、主体性、チャレンジ精神、協調性、責任感などの基本的な能力、異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティーの3要素に加え、教養と専門性、課題発見・解決能力、リーダーシップ、倫理観など、ビジネスを始めとするプロフェッショナルな場で必要となる能力があげられている。

これらは、以下のように有機的に関連しあっていると、研究代表者は考えた。

上記とは、外国語(特に英語)コミュニケーションおよび異文化理解という点で強い結びつきがあり、日本と海外とのギャップを埋め、連携すべき軸である。一方のとは、が言わば社会人基礎力、がその上に構築されるプロフェッショナルな能力と考えられ、大学と実践とのギャップを埋め、連携していく軸である。(さらにと、とは「コミュニケーション能力」と、とも「異文化間コミュニケーション能力」というキーワードで、連結することが可能である。)これらを有機的に発展させ、グローバル力を高めるために、研究目的を以下の3点に絞った。

(1)最初の軸、異文化理解と語学力、コミュニケーションに関する点は、Byrum(1997)の異文化間コミュニケーション能力(ICC)に関わる概念である。日本では、語学力とグローバル能力を同一視しがちな傾向がうかがわれるため、ヨーロッパのように言語環境が複雑で、高度な異文化能力が必要とされる地域と比較し、海外から見た日本のグローバル人材や成熟度を調査する。

(2)もう一方の軸、社会人基礎力と、その上に構築されるプロフェッショナルな能力(大学と実業界)の連結については、これまでの日本国内向けの社会人基礎力育成手法と評価方法を、アジアの経済・人材交流のハブであるシンガポールと比較し、具体的なグローバル人材育成手法を創出する。

(3)これら2つの軸を連携させ、総合的にグローバル人材を育成させる方法として、グローバルからグローバルへと連携させる具体的な方法、プロジェクトを提案する。

このように、異文化能力とビジネス能力の両軸からグローバル能力を捉え、さらに、海外から日本人のグローバル能力を評価するという新しい視点を取り入れることにより、日本の国際化戦略の一環となる、大学でのグローバル人材教育の課題とモデル提示を行うことを研究目的とした。

3. 研究の方法

(1)上記、目的(1)については、研究代表者、藤尾が、2015年度海外特別研究にてイギリスに滞在したため、この機会を利用して、イギリス・欧州を中心に、日本人および現地のビジネス・パーソン、教育関係者、留学中の日本人学生にインタビューやフォーカス・グループを通じてデータ収集を続け、質的調査による深い洞察を通じて、海外で活躍をするビジネスパーソンや留学中の学生が抱える、個人、組織、国レベルでの課題を明確にした。分析方法には、主として、木下(2008)の修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチを用いた。

(2)上記(2)については、分担者の小林が、基盤研究(c)「産学連携を通じたアクティブラーニングによる社会人基礎力育成カリキュラムとその成果評価法」の代表者として、産学連携に取り組んでいた。こうした先行研究を生かし、これまでの日本国内向けの社会人基礎力育成手法と評価方法を応用させて、特に、アジアの経済・人材交流のハブとなるシンガポールにおいて事例研究を行い、担当する業務分野においての専門的スキルのレベル調査と多国籍な取引先や同僚と円滑なビジネス交渉を行うための異文化間コミュニケーション能力に関する定量的調査を行った。

(3)上記2つの軸をいかに連携させ、総合的にグローバル人材を育成させるかについては、上記、藤尾、小林による連携に加え、もう1名の分担者、村田が、大学間連携協働教育推進事業において、グローバル人材の育成のプログラム開発に取り組んでおり(<http://glocal.kyoto-su.ac.jp/>)、地場産業や伝統産業という地域に軸をおいた企業が、自社の製品を海外向けにデザインした

り、製品の使い方を変える等、「日本ブランド」をどのようにグローバル化していくか、また、このような海外展開にどのような人材（能力）が求められるのかについて調査した。実際の授業の中で、学生が製品開発のアイデアを出し、企業にプレゼンするというプログラムが開発され、その結果が発表された。

4. 研究成果

上記(1)から(3)に関する研究成果は、各々以下の通りである。

(1)日本人ビジネス・パーソンや留学生が抱える課題は、代表者藤尾によって、個人、組織、国レベルでの課題として整理され、国際学会やジャーナルで数多く発表された。主要な知見としては、日本企業が海外に現地法人を出す際、日本の価値観をいかに伝えるかがコミュニケーション上の一番の課題となること、また、現地法人で成果を出しても、ローカルな人材として終わることが多く、日本本社は、地域を超えたグローバルな人材活用を考えるべきであることが、現地のスタッフによって指摘されていた。また、欧州の合弁事業で働く日本人からは、英語に加えて、現地語が会議中に飛び交うことも多く、現地語のある程度の習得も必要になること、また、ビジネス上の意思決定や進め方の違いを日本本社が十分に理解してくれないことも、負担になることが述べられた。要約すると、個人レベルでは、英語コミュニケーション能力を向上させること、組織レベルでは、ビジネスの進め方の違い（意思決定のスピードなど）が誤解を生み出す一因となっていること、国レベルでは、経済の停滞に伴い、近年日本の存在感が薄れて来ており、それが各企業にも影響していることが明らかになった。

一方、留学生への調査では、グループ・ディスカッションにおいて、英語母語話者や他の留学生に圧倒されて、発言できないことが共通の、そして最大の課題となっており、英語力に加え、自ら発言することの難しさ、自らの意見を持っていない難しさが露呈された。言い換えれば、日本の講義中心の受け身の大学教育に慣れた日本人学生は、自発的に物を考えないことが、海外留学での大きな壁となっていることが浮き彫りになった。そのため、個人の英語コミュニケーション能力に加え、組織（大学）や国レベルでは、学生の発言を促すような主体的な教育へとシフトしていく必要性が、緊急の課題として再確認された。

(2)シンガポールにおける調査の結果、小学校から言語（母語、英語）と理数科目を中心とした厳しい学習とテストにより、知性を鍛えられ、その結果に即した職業についていることがわかった。また、彼らが異文化コミュニケーションを成立させている要素を探ったところ、他人が発信する様々な情報を、

発見する能力、それに対して能動的に対処しようとする気持ちと適切な動作やふるまいを行える能力が非常に高いことがわかった。そして、その理由の一つが、厳格なトラッキング制度とその結果に基づく公平な職業マッチングにより支えられた職業観や人間観などが、異文化理解能力を高めているということも明らかになった。

つまり、高い知性と異文化コミュニケーション能力の醸成により、シンガポールのこれまでの急激な経済発展やグローバル化が支えられてきたのであり、今後はそれらの事例を、日本でどのように応用するべきかの研究と提案を実施していくことにしたい。

(3)京都府内の企業や経済団体との連携のもと、グローバル人材育成のための教育プログラム（アクティブラーニングを重視したPBL）の開発と実施、その結果についての分析を行った。加えて、日本企業の職場談話（とりわけビジネスミーティング）の収録を行い、実際の職場談話にみられるディスコースストラテジーについての分析も行った。実証研究を通して、グローバル人材育成にのみならず、グローバル人材の育成も日本社会における喫緊の課題であることが明確になった。

<引用文献>

- Byram, M. (1997). *Teaching and Assessing Intercultural Communicative Competence*. Clevedon, UK: Multilingual Matters Ltd.
- 木下康仁 (2003) 『グラウンデッド・セオリー・アプローチの実践』弘文堂

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 7 件)

Fujio, M. (2018). Challenges Facing Globally-Minded Leaders in a Japanese-European Joint Venture Company. *Business Communication Research and Practice*, 1, 18-25. (査読有)

藤尾美佐 (2016) 「海外から見た日本人グローバル人材の強みと課題: 日系企業の事例研究」『研究年報』(国際ビジネスコミュニケーション学会編) 第75号、3-12 (査読有)

藤尾美佐 (2016) [国際ビジネスコミュニケーション研究の展望] 『商学研究』(関西学院大学商学研究会編), 第64巻4号、41-54(査読なし)

藤尾美佐 (2015) 「英語ビジネスプレゼンテーションにおける大学教員とビジ

ネスパーソンの評価観点の違い」『経営論集』第86号 31-45 (査読なし)

小林猛久、宮澤奈美江(2016)「セルフ・カウンセリング理論に基づいたビジネスコミュニケーション能力の評価に関する考察」『研究年報』(国際ビジネスコミュニケーション学会編)第75号, 59-70 (査読有)

村田和代、榎並ゆかり、上野敏寛 (2017) 「グローバル人材育成をめざす企業連携による課題解決型学習プログラムの開発と実施」『龍谷政策学論集6巻1・2合併号』63-76 (査読なし)

村田和代 (2017) 「地域公共人材に求められるコミュニケーション能力をめぐって」『豊中市役所とよなか都市創造研究所機関誌 TOYONAKA ビジョン』22(20), (査読なし)

[学会発表](計 21 件)

藤尾美佐、小林猛久、村田和代 (2017) 「海外から見た日本人グローバル人材の強みと課題—大学教育への示唆—」特別研究報告(パネル)国際ビジネスコミュニケーション学会第77回全国大会: 東洋学園大学 2017年10月7日

Fujio, M. (2017) The Gaps between Educational Ideals and Existing Resources to Foster Globally-Minded Business Leaders in Japan. The 82nd Annual International Conference Association for Business Communication (第82回ABC年次大会学会)(アイルランド)2017年10月20日

Fujio, M. (2017) The longitudinal changes of intercultural competency through overseas study and impact on future career. JACET the 56th International Convention (大学英語教育学会 第56回年国際学会)青山学院大学 2017年8月29日

Fujio, M. (2017) The Linguistic Challenges Facing Japanese Business-Major Students in Becoming Globally-Minded Leaders. Association for Business Communication (ABC学会) 第15回Asia-Pacific大会 Polytechnic University 香港 2017年6月10日

Fujio, M. (2017) The Ideal English Perceived by Japanese Business-Majors. Spring Conference of the Korean Association for Business Communication: Dongguk University in

Gyeongju, Korea. 2017年3月25日

Fujio, M. (2016) English Education at the university level in Japan. In the panel entitled "English Education in Globalization of Japan." Global Colloquium Komaba Language Association. 東京大学駒場キャンパス. 2016年11月7日

Fujio, M. (2016) The Power of Language in a Japanese-European 50% Joint-Venture Company The 81st Annual International Conference of the Association for Business Communication (ABC学会 第81回年次大会)(Hotel Albuquerque アメリカ)2016年10月22日

Fujio, M. (2016) Challenges of Globally-Minded Leaders Working for a Japanese-European 50% Joint Venture Company 国際ビジネスコミュニケーション学会第76回全国大会: 龍谷大学 2016年10月8日

Fujio, M. (2016) The changes of intercultural awareness and attitude towards different cultures through overseas study JACET The 55th International Convention (大学英語教育学会第55回国際大会)(北星学園大学) 2016年9月2日

Fujio, M. (2016) The Challenges and Opportunities for Intercultural Business Communication: New Possibilities from Asia. 韓国経営関連学会 総合学術大会 第18回大会 KABC (Korean Association for Business Communication) Session (釜山 BEXCO, 韓国) 2016年8月19日

Fujio, M. (2016) Different Organizational Styles, Different Global Managers: A Comparison between a Japanese Company & a Joint Venture Company with an European Manufacturer. 2016 GABC with ABC Caribbean, Mexico, Central and South America (Tecnológico de Monterrey (ITESM), Campus San Luis Potosí メキシコ) 2016年5月27日

Fujio, M. (2016) Traditional Japanese communication and challenges for globalization. Special Lecture for the Department of Asia and North African Studies. (招待講演)

Ca' Foscari University(イタリア)2016年2月4日

Fujio, M. (2016) Qualifications for Successful Global Managers: Perception Gaps between Japanese Managers and Local Staff Members. The 12th Conference of the Europe, Africa and Middle East Region of the Association for Business Communication (ABC学会第12回ヨーロッパ大会)(University of Cape Town, 南アフリカ共和国) 2016年1月6日

Fujio, M. (2015) The opportunities and challenges of using English in Japan at the university and corporate Levels. (招待講演) Lecture Series on Intercultural Communication, Aarhus University, Denmark(デンマーク) 2015年11月9日

Fujio, M. (2015) Hierarchy and harmony observed in a Japanese business meeting. The eighth International Conference on Discourse, Communication, and the Enterprise (DICOEN VIII) (Università degli Studi di Napoli Federico II ナポリ、イタリア) 2015年6月12日

Fujio, M. (2015) Seniority or professional knowledge? Turn-taking style in a Japanese business meeting. Global Advances in Business Communication (GABC) 7th Annual Tricontinental Conference (East Michigan University, USA) 2015年5月29日

Kobayashi, T. (2017) "An Analysis of Business Communication Study in JBCA" Spring Conference of the Korean Association for Business Communication: Dongguk University in Gyeongju, Korea. 2017年3月25日

小林猛久(2017)「グローバル人材の資質とその育成方法の一考察」第35回異文化間情報ネクサス学会定例会(於:和光大学) 2017年9月30日

Murata, K. (2017) "Is a CEO a teacher and a meeting a classroom? - Examining the Japanese ideology of hierarchical relationships in Japanese workplaces". In the panel entitled to 'Exploring roles of ideology in Japanese workplace discourse'. The 15th International

Pragmatics Conference: Belfast Waterfront Center, UK. 2017年7月20日

Murata, K. (2016) "When do people laugh? An empirical study about laughter in Japanese business meetings". The 12th Conference of the Europe, Africa and Middle East Region of the Association for Business Communication (ABC学会第12回ヨーロッパ大会)(University of Cape Town, 南アフリカ共和国) 2016年1月7日

21 Murata, K. (2015). "Humour and laughter in Japanese business meetings" In the panel entitled to 'Community of Practice in Japanese Business Discourse: Strategic Uses of Linguistic Resources' The 14th International Pragmatics Conference, University of Antwerp 2015年7月29日

〔図書〕(計2件)

藤尾美佐 (2016) 『日本人だからこそできる英語プレゼンテーション』DHC出版、1-168

小林猛久 (2016) 「フェイスブックの中のコミュニケーション」浅間正通編著『デジタル時代のクオリティライフ』遊行人社、69-85

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況(計 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

藤尾 美佐 (FUJIO, Misa)
東洋大学・経営学部・教授
研究者番号：20350712

(2) 研究分担者

小林 猛久 (KOBAYASHI, Takehisa)
和光大学・経済経営学部・教授
研究者番号：40434211

村田 和代 (MURATA, Kazuyo)
龍谷大学・政策学部・教授
研究者番号：50340500

(3) 連携研究者

()
研究者番号：

(4) 研究協力者

()